

1 通学定期券購入補助事業

日常利用の促進

- 事業内容** 学生の通学定期券購入費用の一部補助
- 特徴** 市内在住の学生で、西脇市～谷川駅間に係る通学定期券の額の2分の1を補助する。
- 実施主体** 西脇市、丹波市（R5予算：計1,500千円）
- 実施期間** 4月～
- 実施結果** R5年度実績：利用者43名

【反響・今後の課題】

- ・対象が西脇・丹波市民に限定されるため、西脇市駅以南の利用も含め、広域での利用促進に係る補助制度スキームの検討が必要である。
- ・R6年度も同制度を継続し、日常利用を推進する。



通学風景「西脇市駅」

2 JR加古川線に乗ろう！キャンペーン

観光需要の増加

まちづくりと
一体となった魅力創出

- 事業内容** JR加古川線を利用した駅周辺地域でのイベント等キャンペーンの実施
- 特徴** 電車利用後に地域の名所を巡るハイキングや、駅に隣接する交流拠点施設「あつまっ亭」での餅つき大会等イベントやレンタサイクル事業の実施等、一連の取組みを実施する。
- 実施主体** 黒田庄まちづくり協議会、西脇市（R5予算：1,000千円）
- 実施期間** 7月～11月
- 実施結果**
- ・7月10日からいぢい事業を開始（R5年度実績：利用者32名 うち鉄道利用者20名）
 - ・ハイキング等イベントを11月26日に開催（参加者：約350名）

【反響・今後の課題】

地域住民が主体となって行う事業であり、地域住民のマイレール意識等の盛り上がりがかぎとなるため、より多くの住民を巻き込むための仕掛けが必要である。



黒田庄駅のレンタサイクル

3 加古川線フォトコンテスト～さあ、加古川線(加セ)を愛そう～

日常利用の促進

観光需要の増加

- 事業内容** ①鉄道写真家による講演会の実施及び②フォトコンテストの開催等
- 特徴** ①鉄道写真家による「鉄道写真の撮り方」をテーマにした講演会を実施
②JR加古川線フォトコンテストを実施し、審査・表彰を行うとともに、入賞作品等をメディアを活用したPRに取り組む。
- 実施主体** 西脇市・丹波市連携 (R5予算: 608千円)
- 実施結果** ①開催日: 8月6日 (募集: 100名 参加者: 213名)
②募集期間: 8月1日～12月28日 (応募作品: 112点)
優秀賞2点、市長賞2点、佳作3点



フォトコンテスト作品より

【反響・今後の課題】

- ・想定よりもかなり多くの方に参加いただいた。鉄道写真など、鉄道本来の利用目的以外にも鉄道の利用促進を図ることは可能であるため、有効な取組を検討実施する。

4 ARスタンプラリー

観光需要の増加

- 事業内容** ARを活用したデジタルスタンプラリーを実施
- 特徴** 鉄道を利用した周辺観光地等の周遊促進を図るため、兵庫DC期間に合わせ、駅及び周辺観光施設等をスタンプスポットとして、沿線観光施設、JR加古川線、神戸電鉄粟生線、北条鉄道等の協力のもと実施し、兵庫DCとの連携による相乗効果を図る。
- 実施主体** (主催) 北播磨広域観光協議会
(共催) JR加古川線・神戸電鉄粟生線・北条鉄道利用促進協議会 (R5予算: 3,200千円)
- 実施期間** 8月～9月 スタンプスポット (駅・周辺観光施設等) 計15箇所
- 実施結果** 駅・周辺観光施設等延訪問者数: 2,399名 (獲得スタンプ数) 実人数: 667名
(西脇市-谷川間スポット実績: 日本へそ公園177名 ちーたんの館124名)

【反響・今後の課題】

- ・参加者からは、今回のスタンプラリーで久しぶりに駅に訪れたという声もあり、駅(鉄道)を再認識するきっかけとなった。
- ・鉄道車内にスポットを設置する等、鉄道を必ず利用して参加するしくみができれば、さらなる効果が期待できる。



5 わが町考え隊「heso city club プロジェクト」

観光需要の増加

まちづくりと
一体となった魅力創出

事業内容 鉄道を中心とした地域おこしのための組織の創出
特徴 地域住民、社会活動家等が中心になり、西脇市～谷川駅間の
 鉄道を中心とした地域活性化策を検討し、実施する組織を発足
実施主体 社会活動家等、北播磨県民局（R5予算：300千円）
実施結果 西脇市在住の堀井氏（靴職人）を中心に、地域活性化策を展開

「マルトリエ」
参加者からの
メッセージ

- ・SNSによる情報発信（随時）
- ・ワークショップ「マルトリエ」の実施(12/10) 参加者数：約100名



- ・なくなってしまうと高校生の進路の幅を狭めてしまうので残していただきたい。
- ・一人一人地域で列車の存続について考えよう。 等

【反響・今後の課題】

地域住民等への活動の周知や連携の拡がり、JR加古川線への地元意識の高揚を図り、利用促進につなげられるよう継続した取組が必要である。



ワークショップ「マルトリエ」

6 JR加古川線リレーマルシェ

日常利用の促進

観光需要の増加

まちづくりと
一体となった魅力創出

事業内容 駅周辺でマルシェなどを開催

- ①西脇市域区間内・・・（実施主体：地元まちづくり協議会、北播磨県民局）
- ②丹波市区域内・・・（実施主体：地元自治振興会、丹波県民局 等）

昨年度実施結果

- ①久下村夜市 （8/22開催、参加者 約 600名、うち加古川線利用者 約 270名）
- ②谷川夜市 （12/22開催、参加者 約 470名、うち加古川線利用者 約 120名）
- ③黒田庄マルシェ （2/25開催、参加者 約1,200名、うち加古川線利用者 約 240名）

【反響・今後の課題】

- ・鉄道利用を喚起し、多くの方に参加いただいた。特に黒田庄マルシェは雨天にかかわらず、多数参加いただいた。
- ・継続開催に向けた仕組みづくり、参加者数の予測、会場環境整備、鉄道利用者の更なる増加が課題である。



「谷川夜市」で賑わう駅前広場

7 通学自転車を乗せるサイクルトレイン実証実験

日常利用の促進

事業内容 鉄道の日常利用促進のため、自転車をそのまま列車に乗せるサイクルトレインの実証実験を行う。

特徴 地元高校生を対象として、登下校の時間帯に実証実験を行い、安全性の問題点等を検証する ※モニター：西脇高校生3名

実施主体 JR西日本、西脇市、兵庫県

実施結果 ・プレ実証実験：8月3日 ・実証実験：10月10日～13日、10月23日～27日



サイクルトレイン実証実験

【反響・今後の課題】

- ・自転車の乗降や列車内での固定について問題なく実施できた。
- ・現車両では乗せられる自転車は3台程度であるが、安全性の問題や、運行に支障がないことから、引き続きサイクルトレインの実現に向け検討を進める。

8 “さあ、加古川線(かこ)を愛そう”利用促進ウィーク

日常利用の促進

観光需要の増加

事業内容 西脇市と県立西脇高校生、県立繊維工業技術センターが共同製作した播州織の中吊り広告を掲出して車内を装飾し、また、啓発ポスター、チラシ等により、通学や通勤、出張等にJR加古川線を利用するよう住民・企業等に呼びかける。

実施主体 西脇市・北播磨県民局共催（協力：西脇高校、繊維工業技術支援C）（R5予算：450千円）

実施結果 播州織中吊り、チラシ、ポスター、HP、新聞広告等で呼びかけを実施（期間：10/5～18）
ウィーク中平日と通常平日との輸送密度の比較：1.17倍

・10/17(火)輸送密度155名（ウィーク中平日）・10/31(火)輸送密度132名(通常平日)

【反響・今後の課題】

- ・播州織の中吊り広告は好評で、どうにか入手したいという問い合わせもあったため、掲出に続く次の一手（鉄道利用者へのハルティ配布等）も有効である。
- ・中吊り広告とそれをデザインした西脇高生が地元紙に掲載され、地域住民に現状や利用促進の取組を情報発信することができた。



播州織中吊り広告

9 利用実態調査、利用促進活動

日常利用の促進

事業内容 加古川線(西脇市-谷川間)の利用実態調査
特徴 乗車・降車駅、目的、利用頻度、二次交通等についてのアンケート調査と、特製クリアファイル、兵庫DCパンフレット、ノベルティを約400セット配布し、鉄道利用促進の呼びかけを実施

実施主体 JR西日本

実施期間 乗り込み調査7/8(土)・9(日)・11(水)・13(木)

実施結果 アンケート獲得数=494、獲得率=74%

- ・平均乗車人数/日(平日384人、休日284人)
- ・最大乗車人数/1列車(平日25人、休日28人)

【反響・今後の課題】

- ・今後は、鉄道を利用されていない地域の方々への利用促進の呼びかけが必要である。



特製クリアファイル



配布物



利用実態調査(促進活動)

10 JR観光情報誌 西Navi

観光需要の増加

事業内容 観光情報誌「西Navi」に地域の特産品紹介
特徴 観光情報誌「西Navi」表紙+紙面に西脇市特産品(播州織、播州ラーメン、スイーツ等)の特集を掲載。

実施主体 JR西日本

実施期間 2023年7月25日~8月24日(8月号)

実施結果 約40万部発行、JR西日本管内主要駅に掲出

【反響・今後の課題】

- ・県内外のお客様へ地域の特産品をご紹介・宣伝することができた。
- ・紙面に掲載された店舗からは、「来店するお客様が増えた」とのコメントもあった。



西Navi表紙



11 加古川線利用促進リーフレットの作成

日常利用の促進

観光需要の増加

事業内容 加古川線(西脇市-谷川間)利用を呼びかけるリーフレットの作成

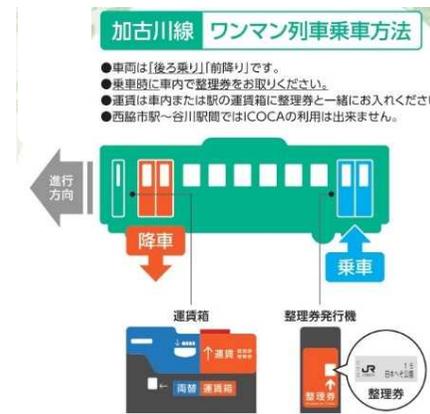
特徴 公共交通のメリット、加古川沿線のお役立ち情報、鉄道のご利用状況、ワンマン列車の乗車方法、WESTERアプリの便利機能などを掲載

実施主体 JR西日本(協力:兵庫県、西脇市、丹波市)

実施結果 8,000部、令和6年2月作成

【反響・今後の課題】

- ・駅等での配架、沿線自治体施設への配架を実施
- ・引き続き駅等での配架やイベント等での配布を検討



12 西脇高校による加古川線NEW路線図作成

日常利用の促進

観光需要の増加

事業内容 JR西日本 明石電車区、加古川駅と西脇高校とが連携し、播州織、鮎、桃、いちじくなど各沿線地域の特産品等を路線図の中に取り込んだ、色鮮やかな加古川線のNEW路線図を作成

実施主体 JR西日本、県立西脇高等学校

実施結果 R6.1.27 NEW路線図のお渡し会の開催

(西脇市駅にて感謝状の贈呈や、生徒による路線図の差し替え)



【反響・今後の課題】

従来の路線図に比べ、地域性に富んだ路線図を作成することができ、西脇高校生のマイレール意識を醸成したと考える。

